

もくじ

- 新年を迎えて…… 1
ふれあいまつり …… 2~3
- 住宅の耐震化…… 4
事業活動報告 …… 4~6
- ゴミ・クサゼロ…… 5
宮田の昔⑪ …… 6



宮田学区
コミュニティ推進会
第128号
令和8年1月1日発行
〈発行者〉岩間 廣道
〈編集者〉広 報 部
〈印刷〉(有)オーバル
プリント



皆様の健康とご多幸と
心よりお祈り申し上げます
令和八年 元旦



宮田学区コミュニティ推進会
会長 岩間 廣道

謹んで
新年のご
祝辞を申
し上げま
す。会員

の皆様には晴れやかに、お健やかに新春の初日を迎えられたことと、心からお慶びいたします。

さて、今年度の当推進会における主事業の一つである「元氣っ子体験村」は中止となりましたが、「宮田ふれあいまつり」と「総合防災訓練」は、予定通り実施されました。

ここで、新事業を紹介いたします。市策の「ごみゼロ・くさゼロ大作戦」に沿う形で「学区一斉清掃活動」を春・秋の2度、実施する計画です。これは、居住者の生活環境を改善することが目的です。

また、当推進会の活動の

場である宮田交流センターが昨年度より市から「風水害に限り避難所」としての指定を受けました。内水氾濫等の小規模被害ならば、学校の体育館よりも空調設備や畳、トイレなどにおいて、交流センターの方が適確だとの結論からです。この先、皆様には「風水害に關して、避難先は交流センター」と覚えてください。



のある適任者を選定していただけますことをお願い申し上げます。

令和7年は、会員の皆様にとつて変化の大きい年でした。福祉では、民生・児童委員が改選となり、生活環境では、再生資源ごみの廃棄方法が変わりました。また、教育では「小学校統合」が身近となりました。様々な変わりようにも感わず、皆様お一人お一人が「住みよい町・宮田」づくりにご協力いただきますようをお願いいたします。

千支の「午」(うま)は、十二支の7番目で、馬を象徴します。

「物事がうまくいく」、「幸運が駆け込んでくる」という意味で縁起がよく、活力、躍動感、力強さ、健康、豊かさを象徴するとされています。これは、馬が古来より人々の農耕、運搬、戦などで重要な役割を担ってきたためです。

午年生まれの人、明るく社交的で行動力があり、チャンスを見逃さない人が多くいとされています。また、リーダーシップを発揮し、周りを引っ張っていくタイプが多いようです。

午年は、古くは平安時代から「干支占い」において重要な意味を持つとされてきました。特に、丙午(ひのえうま)は、火と馬の組み合わせで、活発で勢いのある年になると考えられています。新しいことに挑戦するのに適した年といえます。

皆さんも何か新しいことに挑戦してみたいかがでしよう。この一年、健康に過ごしましょう。



みんなで楽しもう 全員参加の みやたふれあいまつり

● 10月5日(日曜日)
● 宮田小学校 校庭

ふれあいまつり実行委員会
実行委員長 岩間 廣道

10月5日(日)、秋晴れの空のもと「宮田ふれあいまつり」が開催されました。

昨年度は悪天候を理由に中止を余儀なくされ、諦め切れない気持ちで後片づけをされていた実行委員や支部の参加者も、今年は別と言わんばかりに準備に大わらわで「動く、働く、声を上げる」と、勤労精神旺盛な係員がいっぱいでした。



時間が過ぎるのはあっという間で、たちまち開会式の刻限に迫り、支部8張、本部を含む団体の7張、キッチンカー7台のテント群が整然と並びました。今年度のふれあいまつりは、これまでとは多少変更したポイントがあります。1つめは、駐車スペースを小学校の校庭に設けたことです。各参加団体から「準備品や商品



を可能な限り、テントの近くで止めておきたい」との申し入れに応じたものです。2つめは、実施時期を1



熱中症対策を考えなければならなかったことに重ね、校庭と体育館との併用とし



たことです。昨年度、悪天候によって中止せざるを得なかったことは、記憶にも新しいはずですが、支部によつては「すべて体育館内で実施してはどうか」との声が大きく上がっています。





3つめは、会員の高齢化により支部対抗のような競技ができなくなった現実を踏まえ、代表選手を大勢選出して競う種目はなくしてほしいという要望に応えたことです。

しかし、これらの変更は新たな課題も露わにしました。会場を2分化すると、団体テントからわずかな距離でも動かない人が多いことがわかりました。体育館内での開会式参加者は散見

するにとどまり、団体テント内にて片づけや会話している方々が目立ちました。全世帯に市報とともに配布したふれあいまつりのお知らせチラシには「全員でふれあうまつり」と記されていますが、その「絆」は強くなりませんでした。本当に残念です。

反省会でも「次年度には1カ所での開催について企画してみよう」という意見が上がった点は、大きな課題と受け止めています。さらに、もう一つの熱中症対策に関しては「10月初旬の実施日を中旬にずらす」ことでその課題はクリアできると考えています。

ふれあいまつり実行委員会としましては、今年度からできる限り「コンパクトなまつり」を目指し、会員の皆様方に楽しんでいただくよう企画推進してまいります。

反省会でも「次年度には1カ所での開催について企画してみよう」という意見が上がった点は、大きな課題と受け止めています。さらに、もう一つの熱中症対策に関しては「10月初旬の実施日を中旬にずらす」ことでその課題はクリアできると考えています。



今回のまつりには、推定で520名の方々が参加されました。コロナ禍以前では、約1000名もの参加



者が集う大イベントだったことを振り返ると、寂しさは否めません。

人口が減少すること、生活環境の変化などを考慮すれば、元に戻すことを目指すよりも、参加者と実行委



員の誰もが「心から楽しめるまつり」に軸足を移していきたいと考えています。

地域の皆様には、推進会の事業へ積極的に参加していただくとともに、どうぞご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



住宅の耐震化講座および

耐震相談会のお知らせ

無料

■耐震化講座

建築物の耐震化について

【日時】

1月24日(土) 9時～10時

【場所】

交流センター健康増進室

【対象者】

- ①住宅の耐震性に不安を抱えている方
- ②地震に対する備えを検討している方

【内容】

- ①近年に発生した地震と予測
- ②日立市の地震ハザードマップ
- ③耐震化の現状と支援策
- ④地震に対する備え



● 1月24日(土曜日)
● 宮田交流センター

【申込み】

当日参加も可能ですが、人数把握のため、ご連絡ください

■耐震相談会

建築士に個別相談を!

【日時】

1月24日(土) 10時～

【場所】

交流センター健康増進室

【対象者】

- ①木造住宅の耐震化を検討している方
- ②道路沿いのブロック塀の改善を検討している方

【内容】

- ①住宅とブロック塀の耐震化に関する相談
 - ②補助制度の案内
 - (1)木造住宅の耐震化
 - 耐震診断(最大3万円)
 - 耐震改修(最大115万円)
 - (2)ブロック塀等の改善
 - ブロック塀(最大40万円)
 - 大谷石塀(最大50万円)
- 【申込み】
※要予約、1組30分以内

再発見ウォーク

歴史ある神社・史跡を巡る

今年度の「日立の魅力・再発見ウォーク」は、10月12日(日)に実施しました。

当日は25名が参加し、宮田周辺の歴史を見直そうと



荒屋神社にて

1月22日(木)までに

《日立市建築指導課》

☎0294-22-3111 (内線428)



いう趣旨で、近隣の神社や寺院などを巡りました。

まず向かった荒屋神社では、遠藤利秀氏が神輿などについて説明してくださり、特に「牛頭(ごず)天王祭」

において、皆さん熱心に聞き入っていました。

その後、愛宕神社、神峰神社へ向かいました。神峰神社では、手水舎の作法を

教えていただき、参拝前に心身を清めました。さらに神職の方から神社の由緒について説明を受けました。

次に、日立市郷土博物館を訪れて「市宝展」などを堪能してきました。

最後に、県指定文化財で



神峰神社にて



大雄院にて

ある天童山大雄院のご本尊「宝冠釈迦如来三尊仏」に参拝してまいりました。寺務職の方には丁寧の説明していただき、また本堂まで案内してくださいました。

今回の再発見ウォークでは、関係者の方に大変お世話になりました。ありがとうございました。



大雄院宝冠釈迦如来三尊仏

文化体育部

部長 大和田豊克

ゴミゼロ・クサゼロ大作戦

宮田コミュニティ推進会

会長 岩間 廣道

そもそもこの事業は、市民や市への来訪者が快適で安心・安全に日常生活を送れる生活環境を保全するため、市民や企業、行政が一体となって環境美化活動を展開することが目的です。遡ること2005年に、

市は「環境都市・日立」を宣言し、さらに2022年には「ゼロカーボンシティひたち」をも宣言、環境美化への取り組みを打ち出しました。具体的には、この事業に取り組む23のコミュニティに対し、年50万円の補助金を4年前から支給、今年で5年目になります。

当推進会ではゴミやクサ

に対する美化運動を各支部に委ねていましたが、実施にムラがありました。そこで各支部への助成金を厚くし、今年度から「学区一斉美化活動事業」としました。市としては「フォトコンテスト」や「スポGOMI」などを【ゴミゼロ・クサゼロ】とコラボする形で推進しています。皆様のご参加をお願いいたします。

ふれあいサロンの継続にご意見とご協力を！

6年度より「あかねふれあいサロン」と「浜の宮ふれあいサロン」が廃止となり、現在は3サロンが活動するのみとなっています。その原因として、利用者の体力の低下、特に歩くことが困難となり、開催場所まで行けないことが大きな要因と考えられます。

過日、福祉推進部主催で「いつまでも健康に歩くには？」と題し、理学療法士を招いて「健康講演会」を開催しました。

① 内容をまとめてみると、
② 適度の運動や散歩、

クリエーション、③ 認知症予防に効果があるおしゃべりタイム、④ 頭の体操、⑤ 健康づくり推進課による健康講話など、ふれあいサロンには歩くことや健康を維持するための要素が大部分含まれており、大事な活動となっております。

町内や地域での交流が少なくなる中、特に高齢者が集まって楽しく過ごせる場所はサロン以外にないと思われまます。サロンを立ち上げるには、① 65歳以上、② 5名以上、③ 月に1回、④ 日に2時間——という条件

を満たせば、誰でも申請することが出来ます。また実施状況によっては、助成金が支給されます。

公民館や集会所の撤去により、開催する場所がなくなったり、人員の確保がむずかしいなどの問題にも対応しないと、消滅する可能性があります。

コミュニティとしても、福祉推進部を中心に社会福祉協議会とも連携し、現在の問題に対処してまいります。既存のサロンの継続や新規立ち上げのためにも、どうぞ皆様の協力をお願いいたします。

福祉推進部

部長 小野崎 照夫

防災技術研修会の報告

—マイタイムライン作成講座—

当部では9月11日(木)、「地域の防災(自助・共助)力向上のための基礎知識習得」を目的として「防災技術研修会」を宮田交流センターで開催しました。

その内容は「市政出前講座」―災害に備えての心構え―マイタイムライン作成講座―で、講師は日立市防災対策課主事の朝日健二郎氏、参加者は21名でした。

前半は、ビジュアルなスライドと配布資料で、① 風水害マイタイムラインと防災3要素、② 自然災害とハザードマップ、③ 災害をイメージする、④ 「避難」の考

え方を知る、⑤ まとめ―災害は必ずやって来る―、についてわかりやすく教えていただきました。

後半は、各自持参の「日立市洪水・土砂災害ハザードマップ」で自宅のリスクを確認し、風水害時のマイタイムライン(個人・家族の避難行動計画表)の作成と質疑応答を行いました。本研修で学んだ重要な内容は、次のとおりです。

- 宮田学区での風水害として内水氾濫、宮田川や所沢川など中小河川の氾濫、土砂災害などに要注意
- ハザードマップを見てマイタイムラインを作成するには、過去の事例(令和5年9月の線状降水帯による浸水害など)を学び、災害をイメージすることが重要
- マイタイムライン作成を通して、事前準備や避難タスキミングなど、自然災害に共通する備えと避難の考え方が習得できる

防災・防犯部

部長 山本 朝男



ミニ運動会で仲よく

青少年育成部では、事業の一つに「親子ふれあい教室」があります。親と子の出会い、ふれあい、学び合い、語り合うという趣旨で交流センターにて展開しています。また、これは「おもちゃライブラリー」との合同企画でもあります。

9月12日(金)、「ミニ運動会」を開催しました。玉入れ、キャタピラー、障害物くぐり、パン食い競争などを準備し、楽しく自由に参加してもらいました。

玉入れでは、紙のボールを投げ入れました。キャタピラーでは、保護者が一緒に回っていました。スズランテープの障害物では、くぐっては戻り、また



くぐつてを楽しんでいました。パン食い競争は「ヨイ、ドン」がむずかしかったようですが、パンを口にかわいく走っていました。

最後の「読み聞かせ」では、市からの応援の職員に手伝っていただきました。子どもたちは『ぞうくんのさんぽ』と『クジラのともだち』の2冊を静かに聞き入っていました。

少ない参加者ではありませんでしたが、子育ての一助になればと思います。活動しています。親子に、幸あれ！



青少年育成部

部長 滑川 和之

写真で見る 宮田の昔⑩

鉾山電車

く、人も乗せた便乗車は明治44年頃には

運行されていきました。

写真は、日立鉾業所工作課によって昭和15年12月に製造された「電気機関車72号」です。昭和33年8月に撮影されました。パンタグラフ式で重量は20トン、牽引荷重は95トン。ビューゲルをつけた便乗車を連結しています。便乗車1輛の定員は72名。助川・芝内・杉本・大雄院の停留所から従業員のみならず、市民が無

豊かな資金と近代的な技術の導入で日立鉾山の経営にあたった久原房之助は、中央精錬所を構想しました。傘下の鉾山から鉾石を集めて一つの精錬所で集中して精錬を行うものです。10年前に全線開通した常盤線、その助川駅と採鉾所のある本山との中間にあつた曹洞宗・大雄院の地に明治41年3月、中央(大雄院)精錬所を起工します。



同時期に、鉾石や木材、銅製品などの物資を運搬する目的で大雄院と助川駅を結ぶ助川専用電気鉄道(鉾山電車)が敷設され、使用が始まったのは明治41年10月です。物を運ぶだけでは

編集後記

日上市郷土博物館 研究員 萩原 明子

料で乗車することができました。春は沿線に桜が咲き、夏は海水浴へ向かう客を乗せて街なかを走りました。市民に親しまれた鉾山電車ですが、運搬合理化計画により物資の輸送はトラックに切り替えられ、昭和35年10月5日をもって一切の運行が廃止されました。それに先立ち、便乗車は5月31日に廃止されました。

「宮田まなざし」第128号をお届けします。

令和8年を迎え、新しい年明けとなりました。今年度は、一年ぶりに「みやたふれあいまつり」を開催することができました。

第127号で各支部から第1回の「学区一斉ゴミゼロ大作戦」の様子を報告してもらいました。第2回目については前回同様、多くのゴミが集積されました。

この事業の狙いは、市の「環境都市・日立」の宣言に応じたもので、今年度から「学区一斉美化活動事業」としたものです。 (土龍)